

## 研修会の概要

- 目的**  
食品流通段階における食品ロスの削減に向け、商慣習見直しの取組みのより一層の加速化を図るため、事業者向けの実務研修会を開催する。
- 日時** 令和4年11月22日(火) 14:00~16:00
- 内容** ①基調講演 ②事例報告 ③トークセッション
- 参加者** 食品関連事業者等 20名



## 基調講演の概要

- ①講師：北陸農政局 経営・事業支援部 部長 野島 昌弘 氏  
②講師：(公財)流通経済研究所 上席研究員 石川 友博 氏

テーマ：食品ロス削減及び商慣習見直しについて

- 食品ロス削減に関する法制度・目標  
・事業系食品ロスを2000年度比で2030年度までに半減させる目標。  
・商慣習見直し、食べきり運動推進、持ち帰るための容器の導入、フードバンク活動の活用等により、サプライチェーン全体で食品ロス削減国民運動を展開。  
○食品ロス削減に向けてできること  
・食品ロスの発生には様々な要因が関連しており、それぞれの立場で協力しながら、できることから着実に進めていくことが大切。

テーマ：食品ロス削減の課題と今後の展望

- サスティナビリティの可視化  
・個々の取組みが食品ロス削減に寄与していることを、消費者に見えるようにすることが重要。  
○消費者啓発  
・体験型・参加型の啓発により、楽しく気軽に食品ロス削減に取り組むことができる。  
○ビジネスプラクティスの再構築  
・業界同士が合意のうえで、納品期限緩和、賞味期限延長、情報の早期共有など、各業界にメリットのあるやり方へ変えていくことが必要。

## 事例報告の概要

株式会社源	カナカン株式会社	株式会社大阪屋ショップ
<p>○AI自動発注システムの導入 ・データを基に需要予測値を出力するAI技術を導入 ・正確な需要予測により発注数量を決定することで、日持ちのしない商品の在庫ロス、チャンスロスを低減 ○フードバンク活動の取組み ・SNSを活用して子ども食堂と連携を取りながら、残存賞味期限が短く、不定期に少量しか発生しない「ますのすし」を迅速に配布</p>	<p>○発注・入荷 ・AI発注システムの導入により欠品率、在庫率の大幅な改善 ・WEB等による正確な発注 ○在庫管理・出荷 ・先入れ先出しの徹底 ○返品削減等 ・企業間での公正な取引ルールの策定による返品削減 ・不動在庫の見える化 ○発生抑制・リサイクル ・製造部門にて、可食部を廃棄しない、見込製造をなくす工夫</p>	<p>○値引きでの売切り ○少量販売・小口販売 ○欠品の許容 ・低頻度品はぎりぎりの数量で品揃え ○新発注機器の導入 ・前週の週間日別売数がデータとして出せる端末を導入 ・マーケティング分析により客数、販売数量の予測精度が向上し、過剰発注、過剰製造が減少 ○研修での考え方指導 ・経験・勘などの主観ではなく、データ・分析予測による客観発注について指導</p>

## トークセッションの概要

テーマ：商慣習見直しの取組み促進に向けて

パネリスト	主な発言内容
<p>滝脇 茂樹 氏 株式会社源 構内営業部 エリアマネージャー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送方法として、新幹線を使用した取組みを行ってみた。輸送時間が短縮され、結果的には食品ロスの削減につながる動きになると思う。</li> <li>・欠品していても代替商品を購入していただく、または次回購入していただけるような工夫を考えていきたい。</li> </ul>
<p>山本 清人 氏 カナカン株式会社 新規事業開発兼地域・行政担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てまえどりや賞味期限についての認識が、当たり前のマナーとして定着するように、行政と企業が連携して取組みを進めていくことが重要。</li> <li>・新たな取組みの前には新たに情報を得る必要があり、勉強会や説明会には積極的に参加している。</li> </ul>
<p>奥野 英樹 氏 株式会社大阪屋ショップ 店舗運営部 店舗運営課 課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発注を早い段階で仮データとして出し、取引先と共有する仕組みを作れないかと考えている。</li> <li>・商慣習見直しの取組みに正解というものではなく、今後、どのように変化していくかわからないからこそ、行政と企業が集まるような研修会等に積極的に参加し、事業者等との意見交換を行っていききたい。</li> </ul>

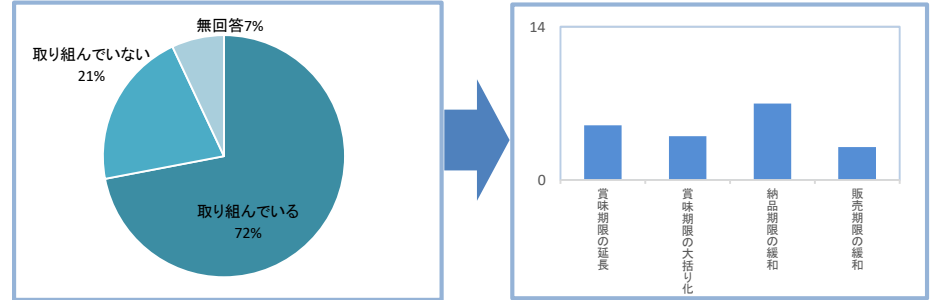
<まとめ> 石川 友博 コーディネーター

- ・消費者分析、物流において、デジタル化に対応していくことが効果的。
- ・行政主導の取組みに積極的に参加し、皆で知恵を出し合い、できることを行っていくことが重要。



## アンケート結果(研修会参加者対象)

- ①現在、商慣習の見直しに向けて取り組んでいますか。 ②取組内容を教えてください。



<その他の意見>

- ・食品に関わる者として、一般の方よりも食品ロス削減について考えていかなければならない。
- ・消費者理解が進まなければ、まだ課題が多い問題である。
- ・すべてを見直すのではなく、できるところから実施していきたい。
- ・チルド食品をフードバンクに寄付したいが、配送や保管が困難。
- ・富山県内でフードドライブ活動を実施していきたい。またすでに実施しているところの課題についても学んでいきたい。

